

教育委員会議会議録〔詳細〕は、市役所1号館2階の市政資料室で公開しています。

.....

佐倉市教育委員会会議録〔会議概要〕

令和4年12月教育委員会会議：定例会

期 日 令和4年12月21日（水）開会 午後2時00分
閉会 午後2時45分

会 場 社会福祉センター3階中会議室

出席委員 圓城寺一雄 教育長 菅谷 義範 委員
小菅 広計 委員 熊倉 夏子 委員

傍聴者 1名

出席職員 教 育 長 圓城寺一雄(再掲) 教 育 部 長 曾山 澄雄
教育総務課長 菊間 明美 学 務 課 長 澤田 法義
指 導 課 長 松丸 晴久 教育センター所長 田中 雅明
社会教育課長 舎人 樹央 文 化 課 長 猪股 佳二
教育総務課企画財務班長 平野 昌彦
事 務 局 教育総務課教育総務班長 山田 智之 教育総務課教育総務班 千々岩和代

〈 会議概要 〉

1 教育長開会宣言

2 報告事項

① 教育長から2件報告

11月17日に開催した教頭会議、11月22日に開催した印旛地区教育委員会連絡協議会指定校である間野台小学校の公開研究会について報告する。

教頭会議では、改めて教頭の職務について確認をした。学校教育法では教頭の職務について、校務を整備する、校長を助け児童生徒の教育活動を行う、校長不在時には職務代理を行うと定められている。各学校では日々様々な教育課題の解消に向けて組織的に取り組んでいるが、その中でやはり教頭の職務というものが非常に重要である。校長は常に判断、決断を迫られる。例えば、突然保護者から苦情等が舞い込んでくる、あるいは、先生方がいきなり

校長に判断を求めてくる。その際に校長として一番困るのは、情報が上がっていないこと、考える時間がないということ、知らないと言えないこと。教頭としては、校長が判断、決断する材料をきちっとそろえることが、教頭の職務である校務を整備するということなのだという話をした。その際、10月3日にプロ野球のオリックス・バファローズが最終戦でパリーグ優勝を決めた翌日の新聞に載っていた記事を引用した。そこには、ヘッドコーチである水本コーチの言葉として「どうしても監督は一人になるポジション。でも、落ち着いた一人にさせたい」と記事があった。選手やコーチの意見を吸い上げて監督に進言する。いわゆる中間管理職のような立場がヘッドコーチなので、教頭職に通ずる部分があると考えて、引用した。

2点目、11月22日に開催した間野台小学校の公開研究会について、間野台小学校では、昨年度と今年度、2年間にわたって研究を進めている。主題として「ICTを活用した情報活用能力の育成を目指して」、副題として「つなぐ つながる 協働的な学びへの授業改善を通して」である。おかげさまで、講師、参加者からは大変高い評価をいただいた。その中で印象に残った授業展開を2つ紹介する。1つ目、4年生の社会科、地域の文化の発展につくした人という単元で、佐倉順天堂を開いた近代医学の父、佐藤泰然を取り上げたのだが、教室と佐倉順天堂記念館にいる教育委員会文化課職員をオンラインでつなぎ、児童の質問に現地の職員が実際に資料等を見せたりしながら説明をしていくという内容であった。2つ目、6年生の数学、比例、反比例の単元で画用紙300枚を全部数えないで用意する方法を考える。こういう学習課題に、カメラ機能やオクリンクという共同学習ソフトを活用して、自分と違う友達の考えを比較検討して学習を進める。このような学習をしており、非常に印象に残った。なお、学校で実施した6年生の児童の実態把握のアンケートの結果では、「タブレットを使って友達に自分の考えを伝えることは得意か」という質問に対し、54%が「とても得意」、40%が「得意」という回答であった。また、「タブレットを使うと、使わないときに比べて、友達の考えが分かるようになるか」という設問に対し、63%が「よく分かるようになる」、30%が「分かるようになる」という回答であった。このように、かなり高い割合で子どもたちがタブレットを使いこなせるようになっているのだということが読み取れるアンケートであった。ICTの活用について、それが特別なことでなく当たり前のこととなり、文房具としてふだん使いができるようにしていくことが大切だと言われている。今回の間野台小学校の実践を市内各学校で共有していきたい。

② 新型コロナウイルス感染症に係る対応について【教育部長】

11月16日から12月20日までの約1か月間の感染状況について、教職員が43名、児童435名、生徒198名であった。前の1か月間と比較して、教職員は29名の増、児童は283名の増、生徒は141名の増である。学級閉鎖等の状況について、学級閉鎖は、小学校7校、計8クラスで1日のみが2クラス、2日間で1クラス、3日間で5クラス実施し、中学校では2校、計3クラスで2日間で1クラス、3日間で2クラス実施した。学年閉鎖と臨時休

校はなかった。今週末で冬季休業を迎えるが、年明け後に向けて手指消毒、手洗いやマスクの着用など基本的な感染予防対策の徹底に努めていく。

③ 令和4年11月市議会定例会について【教育総務課長】

資料1ページ、令和4年11月定例会佐倉市議会議決結果一覧である。11月市議会定例会は、11月28日から12月19日までの22日間を会期として行われた。

初めに、教育委員会に関連する議案及び請願について報告する。議案については、議案第1号、議案第2号、議案第14号、議案第15号の4議案で、いずれも原案のとおり、可決された。なお、議案第1号については、業務の執行上、早期に議決をいただく必要があるため、先議として採決が行われた。資料2ページから3ページ、教育委員会に関連する発議案はなかった。

続いて一般質問について報告する。答弁記録1ページ、一般質問については、12月5日から12月8日までの8日間、教育委員会としては14名の委員から、計76問質問があった。質問及び答弁の内容については、11ページから36ページである。主な内容としては、学校給食への有機農産物の導入に関すること、給食費の負担軽減に関すること、通学路の安全に関すること、新佐倉図書館に関することなど多岐にわたる質問であった。

④ 佐倉市立美術館のネーミングライツ事業に関する協定の締結について【文化課長】

文化施設のネーミングライツについて、資料に趣旨、協定締結先等を記載している。趣旨としては、民間事業者との協働により、新たな財源を確保して持続可能な施設運営につなげるとともに、施設の魅力や市民サービスの向上を図ることを目的として、市が所有する施設に愛称をつけることができる権利を取得するネーミングライツパートナーの事業である。美術館と音楽ホールで募集しているが、美術館について報告する。

契約相手先は株式会社ジィ・シィ企画、市内の業者である。契約期間は、令和5年4月1日から令和15年3月31日の10年間。契約金額は、年度当たり130万円である。愛称は「佐倉市立美術館！...GC！」と示しているが、正式名称「佐倉市立美術館」に相手先のキャッチフレーズである「！...そこにGC！」の「そこに」を省いたものを付け加えている。印刷物等での表記を想定して、呼称は今までどおり「佐倉市立美術館」である。

経緯と今後の予定について、8月25日から10月11日に募集し、11月9日にネーミングライツ審査委員会において市内法人2社から優先交渉権者を決定した。12月26日に協定を締結し、公表する。1月から3月の間に施設表示、看板等の変更等の事前準備を行い、4月1日から愛称の使用開始となる。

⑤ いじめの件数について【指導課長】

11月末のいじめの認知件数は、小学校255件、中学校139件、合計394件。昨年度同時期と比較し、小学校では45件の減、中学校では22件の増である。先週金曜日、学校支援アドバイザー会議があり、その中でも学校は子どもたちの様子を非常に丁寧に捉えており、対応しているというような報告

を受けている。また、学校支援アドバイザーの助言によりスムーズに問題が解決する案件もある。今後も、校長会議また教頭会議を通して学校支援アドバイザーとの連携は極めて重要であるということと、子どもたちの状況を多面的につかむために校内で情報を確実に共有し、いじめの早期発見、即日対応に努めるよう指示していく。

⑥ 感染状況について【指導課長】

11月17日から12月20日までの感染症の状況について、水痘が13名、感染性胃腸炎が3名、流行性角結膜炎が3名、流行性耳下腺炎が2名、溶連菌感染症が3名、インフルエンザが2名であった。インフルエンザについては、今年度合計で4件となった。引き続き感染症予防対策の徹底を図っていく。

《委員から報告》

第50週、12月12日から12月18日について、感染性胃腸炎がかなり増えている。第48週、11月28日から12月4日が印旛郡内の定点当たり160名、定点10.0だったのだが、その次の第49週、12月5日から12月17日になって190名、定点当たり11.88となり、第50週、12月12日から12月18日までが総数212人で、定点当たり13.25まで増えた。先ほど学校の感染性胃腸炎の数があまり多くなかったというが、印旛郡全体ではかなり増えている。注意を要するが、今週いっぱい冬休みなので、一旦また収束、減ることはあると思う。

それから、インフルエンザ、延べ4人ということだったが、第47週で1人、その次の第48週、11月28日から12月4日が2人、第49週、12月5日から12月11日が11人となった。定点当たり0.46、流行にはなっていない。それで、第50週、12月12日から12月18日が10人、定点当たり0.42で横ばい。新型コロナウイルス感染症が発生する前は、例年この時期はもうかなり増えていたが、今年もあまり増えていないが、発生している。これも冬休みに入るので、学校での増加はまずないだろう。今週1週間の状況を見なければいけないが、今のところインフルエンザについては、それほど心配はないだろう。ほかは特に目立ったものはない。

新型コロナウイルス感染症について、印旛市郡医師会内で第50週、12月12日から12月18日の検査総数が6,195件、陽性者数が2,462件、陽性率39.7%である。40%ぐらいになっているので、かなり警戒をしていただくというところになる。今、オミクロン株対応BA.1と4-5の株を使って予防接種をしているが、副反応についてはそんなに違いはないはずなので、打たれておいたほうがよい。带状疱疹が起こるとか何かいろいろ書かれているが、副反応としての带状疱疹とか、そういうことはあんまり問題ないだろうと。带状疱疹確かに増えていることは増えている。例えば、コロナにかかった後の体力の低下とか免疫力の低下で起きる可能性はあるが、予防接種だけでは何とも言えないので、あまり心配されずに接種を受けておいたほうがいかなと思う。子どもの場合の接種について、やはりそんなに数が大きく増えていない。中学生以上がぼつぼつ増えている。うちにも日に何人かは児童・生徒の接種があるのだが、あまり増えていない。これは、もう保護者の考え

方なので強制はできないので、なるべく打てる状況にあれば打っていただきたい。あと、経済を回すとか、そういうことに話がなっていて、共存しなければいけないということだが、油断して注意を怠るとまた元へ戻ってしまうので十分に気をつけていただきたいと思う。どちらにしろ、冬休みに入るので学校現場への大きな混乱はないだろうと思う。あとは、家庭で休み明け、冬休み明けにどういう状況になるか、その辺の注意を促していただければいいかと思う。

3 教育長閉会宣言